

第2 問題作成部会の見解

1 出題教科・科目の問題作成の方針（再掲）

- 英語以外の外国語については、大学入試センター試験の枠組みを受け継いだ『筆記』テストを課し、「リスニング」テストは実施しない。
- 教科としての外国語科の目標である「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う」に基づき問題作成を行う。
また、実際のコミュニケーションを想定した明確な目的や場面、状況の設定を重視する。
- 問題作成に当たっては、CEFR等を踏まえた力を問うことをねらいとして作成する。
その際、大学教育の基礎力を踏まえ、また、高等学校において英語以外の外国語を初めて履修する者もいることを考慮し、問題作成を行う。

2 各問題の出題意図と解答結果

ここでは各問題を出題した意図のほか、個々の問題に関する意見についての見解を述べておく。第1問は発音及び文法・語彙・表現に関する問題である。

Aは発音変化に関する問題である。問1はn挿入と流音化という複合的な発音変化と、語中の平音が濃音化するか否かを問う問題であり、問2はㄷと表記された終声か単語をまたいで初声化したときの発音と、n挿入を問う問題である。

Bは語彙・文法・表現に関する問題である。語彙に関する問題は、単にある語彙を知っているか否かを試すのではなく、具体的な文脈においてある単語が他の単語とどのように共起し、いかなる意味を実現するかという点に留意しつつ出題をした。文法に関する問題は、偏りがないように配慮しつつ語尾や助詞の用法を問うものを出題した。表現に関する問題は、単語や句・節単位での類義表現を問うものや、一対一の直訳でない韓国語としての自然な表現を問うことに重きを置いた。全体的に、日本語母語話者にとり、学習の要点となる事項に重きを置いた出題となるよう心掛けた。

Cは類義表現に関する問題で、一つの表現を他の表現に置き換えることができるかどうかを問うた。単語や句・節単位での類義表現を問うものや、韓国語としての自然な表現を問うことに重きを置き、全体的に、日本語母語話者にとって、学習の要点となる事項に重きを置いた出題となるよう心掛けた。

第2問は、日常生活でよく使われる表現を素材にして、文脈に沿って対話を完成させる問題と、対話の内容を理解し状況を把握する問題を作成した。全体的に使われている単語自体は難しくないが、状況を正しく把握する能力が要求される。

Aは、ファストフード店での店員とのやり取り及び友人同士の対話を読み、その内容を正確に理解できているかどうかを測る問題が中心である。

問1は、空欄補充問題であるが、適当なものを選ぶのではなく適当でないものを選ぶという、多少変則的な形式であった。店員が客に対して使う表現と使わない表現を知っている必要がある。

問2も、空欄補充問題で、受験者には馴染みのある形式である。前後の文脈が分かれば正答を導き出せる問題で、決して難しくない。

問3も、空欄補充問題であるが、3か所の空欄を埋める表現の組合せを問う形式であるため、選択肢が多かった。

問4も、空欄補充問題で、最も多く問われる形式である。会話の流れを理解していれば正答できるはずである。

問5は、本文の内容と一致するものを選ぶ問題である。会話文を正確に読めれば解けるはずである。

Bは、自然科学者と人文学者の対談というこれまでになかった題材ではあるが、使われている語彙も難しくはなく、内容も理解しやすいものとなっている。

問1は、会話文の中の表現に最も近い意味の文を選択する問題である。会話文の文意と選択肢の文意を理解していれば正答できるはずである。

問2は、副詞の言い換えの問題である。어디は「どこ」という代名詞としても使われることが多いが、「はたして」という副詞としても使われる。そのことを知らなければ難しく、知っていれば難しくない。

問3は、空欄補充問題であるが、3か所の空欄を埋める表現の組合せを問う形式であるため、選択肢が多かった。

問4も、空欄補充問題で、2か所の空欄を埋める表現の組合せを問う形式である。選択肢の中に紛らわしい表現が使われてはいるが、前後の文脈を理解していれば正答できる。

問5は、本文の内容と一致するものを選ぶ問題である。これも、会話文を正確に読めれば解けるはずである。

第3問 グラフや説明書など、日常生活で目にし得る素材を読み、その内容理解を問う問題である。読解力や情報収集力を駆使しながら、多様な資料に対して柔軟に対応できるか、といった点が肝要である。本試験と同じく昨年度に引き続き、共通テストに相応しい形にするため、問題作成に際して検討を重ねてきた。

A グラフやウェブサイトの情報など、日常生活で触れることのある素材を読み、その内容理解を問う問題である。

問1は、デリバリー料理に対する認識調査に関するグラフを見て、その結果について正確に把握し、韓国語で書かれた選択肢から適当でないものを選ぶ問題である。グラフを見るとデリバリー料理を「一人暮らしにあってはいる料理だ」と考えている人が62.3%いることがわかるが、「健康に悪い」と考えている人も過半数いるという結果が出ているため、④の「肯定的に考えている傾向がある」とは言えない。繊細な読解と総合的な判断力を要する問題である。

問2はウェブサイトの情報に関する問題である。記事がトピックごとに分けられていたため、内容把握が容易である反面、体言止めや擬態語が出てくる韓国語特有の箇条書きを正確に読み取る必要がある

B のり巻きを模した菓子の作成キットの説明書を読んで、説明書の内容と合致する選択肢を選ぶ問題である。

問1は、菓子の完成図を問うものである。説明文の大きな流れを把握すると同時に、補足説明を見落とさない読解力が必要とされる。

問2は、本文の内容を正確に把握できているかを問う内容一致問題である。単語の難易度自体はそれほど高くないものの、細部にわたった内容把握が必要となるバランスの良い問題といえる。

C 旅行会社の案内文が素材となっている問題である。

問1は、金額の計算を伴う問題となつてはいるが、選択肢どおりに計算を進めれば、それぞれの金額には明確な差が生じるとともに、選択肢自体も日本語であることから、難易度はさほど高くなかったのではないかと思われる。

問2は、内容一致問題である。選択肢の内容と照らし合わせつつ正確に読み進めていく必要があるのはもちろんであるが、Cは第3問の中では文章量が多いため、その点でやや難易度の高い問題となつたのではないかと思われる。

第4問は、愛とは自然に発生する感情ではなく、その人の意志であり技術であると主張する評論で、実践的な愛の哲学とも言える内容になっている。一般常識とはやや異なる、論理的かつ哲学的な文章を正確に読み取り、推論する力が求められる。

問1 ハングル表記された漢字語の漢字表記を問う問題。2題出題されたが、いずれも正解だった。後者の問題は、音の異なる同一の漢字（一つの漢字が複数の漢字音を持つ場合）を選ぶという新しい出題形式であったが、難易度はかなり低かったと思われる。

問2 下線部が指示する内容を問う問題。具体的には本文中に書かれている「いくつかの前提」に「含まれないもの」を選ぶ問題で、本文を広く視圏に入れて考えなければいけない問題であり、やや難易度は高かったと思われる。

問3 下線部の具体例を選ぶ問題で、難易度はそれほど高くない。

問4 空欄補充の問題。前後の文脈に照らして、適当な副詞語を選ぶ問題。当該文のみを見れば、おおよそ正解に辿り着ける問題で、難易度はあまり高くなかったと思われる。

問5 下線部が指示するものを問う問題で、難易度はそれほど高くない。

問6 空欄補充の問題。直後の文章から導き出せるため、難易度は低めと思われる。

問7 空欄補充の問題。文脈を考慮して、連体修飾語を選ぶもので、難易度は低かったと思われる。

問8 文を適切な箇所に埋め込む問題。

問9 本文中に具体的に明記されているわけではなく、本文ではやや抽象的に書かれている内容から具体例を推測する力が要請される。

問10 本文の内容一致問題。本文全体を通して選択肢ひとつひとつを検討する必要があるため、難易度はそれなりに高かったと思われる。

3 出題に対する反響・意見等についての見解

共通テストも2年目となり、より実践的なコミュニケーション能力を重視した問題するために、漢字の読みを単独で問う問題をなくし、短文を提示した文法問題を減らして、その代わりに新しい形式としての実用問題を新設し、長文の中に漢字の問題や文法問題を組み込むなどの工夫を行った。

第1問に関しては相変わらず発音や文法、語法の知識のみを問う問題であり、読解問題の中で語彙力・文法力を問うべきであるという批判があった。だが、学習者にとって必要な文法知識を問うこともまた必要で、短文の中でそれを問うことにも意味がある。それらを会話文や長文においてのみ問うことには限界があり、逆に会話や長文の題材選びや問題作成に困難をきたすことが考えられる。よって、今後も発音や文法問題はなるべく文章の中に組み込む努力は続けるものの、第1問のような形式の問題は存続させるべきと思われる。

実用文の出題について、問題の質自体は前年度よりも更に向上した。ただし、実用文は全体的に問題文など、受験者が読まなければならない文章の量が多く、これを今後も減らす努力をしていく予定である。

長文問題は、読解力や思考力を問う論説文のみ1題を出題する体裁を維持した。一つの長文に関

する問いの数が増え、じっくりと文章を読めると評価されたが、分量が多く、難解であるとの意見もあった。題材や分量に関しては、今後も検討していく必要がある。

そのほかの問題に関しては、おおむね学習範囲内の語彙や文法で適切な問題であるという評価を頂いた。また、高校入学以降の学習者にも十分解ける問題であると思われる。今後もより一層良質な問題の作成を目指していきたい。

4 ま と め

共通テスト開始に当たって実用的な場面を想定した問題を取り入れるなど新たな取組がなされたが、まだ課題はある。実用的な場面を想定した問題については題材や形式について、様々な可能性がある一方で、大学入試の問題としてどこまで許容されるかという問題もあり、今後も議論すべきだろうし、長文問題をどうしていくか、問題文を短くしたものを幾つか出題して、様々なジャンルの文章を出題できるようにするかも検討課題である。また、問題作成を経るうちにどうしても文章が長くなる傾向があるので、全体の分量に常に留意する必要がある。

使用語彙や文法項目については学習範囲であると評価されたので、今後もこの方針を維持していく。